

私は、看取り士。

わがままな最期を支えます

柴田久美子 著

新書判・上製・296頁 本体1,400円+税
ISBN 978-4-333-02785-9

これまで200人以上の人生の最期に寄り添い、その旅立ちを見送った著者が、
実体験を語る感動エッセイ&ドキュメント。
多死社会が到来し、「死の質・QOD」が問われるいま、
著者の提唱する「幸せな逝き方」とは――。

医師・鎌田 實氏との生と死をめぐる白熱の対談を収録！

多死社会はもうやってきているし、これからは、病院だけで看取るなんて、
もう絶対にできない、というのははっきりしています。看取り士のニーズは
必ずあるはずです。(鎌田氏)

- ✔ 亡くなる方との接し方、看取り方をイラストを交えて説明。
- ✔ エンディングノートの書き方も掲載。



柴田久美子 プロフィール

1952年、島根県出雲市生まれ。老人福祉施設に勤務後、離島で看取りの家を創設する。活動の場を本土に移し、日本看取り士会を設立。

「看取り士」として旅立つ人に寄り添うかたわら、「看取りの文化」を伝える講演活動などを展開している。現在、一般社団法人「なごみの里」代表理事、一般社団法人「日本看取り士会」会長を務める。著書に、『「ありがとう」は祈りの言葉――隠岐の離島に生きる高齢者たち――』など。



アマゾンでもご購入いただけます

アマゾンサイト内で「私は、看取り士。」と検索するか、QRコードをご利用ください。(予約受付中場合があります)



目次

まえがき 看取りはいのちのバトンの受け渡し なぜ今「看取り士」が必要なのか

第1章 抱いて 看取る、ということ

死は怖いものでも忌み嫌うものでもない／人間は死んだら「愛」になる／幸せな最期の三つの条件／死を前にして感じる四つの苦しみ／高齢者さまの孤独／看取りの作法／看取りの際の「四つの質問」／大丈夫と声をかける――「大丈夫」の言葉の二つの意味／旅立つ人と呼吸を共有する／看取りの姿勢 他

第2章 看取りはグリーフケア

グリーフケアは肉体があるうちに／最期の瞬間に間に合わなかったと悔やむ「臨終コンプレックス」／「看取り直し」の気持ちを整理する／自死でもお迎えは来ている／看取りは「許し、を生む」／生きている間に行うグリーフケア「胎内体感」／死後に行う法要の意味 他

第3章 最期 は本人が自分でプロデュースする

逝く人は待つってくれる／「もういいよ、ありがとう」／看取りの事例 その1 雪乃さんの場合／人間の尊厳とは？／医療者が壁／ハードルになってしまう場合／医師の事情――戸惑う医師たち／現場で悩むナース／男性介護者は救者か？ 他

第4章 最期くらいはわがままでもいい

自分のことだもの、わがままになっていい／「プリンが食べたい」／エンディングノートは家族とのすり合わせが大切／希望はいのちを支える／子と祖母と一緒に看る女性／最期の後始末／今更はずす増える「おひとりさま」／変わりつつある医療の現場 他

第5章 対談 柴田久美子 × 鎌田實

「看取り士って何？」／「看取り士」誕生秘話／死は怖くない／死は敗北なのか／多死社会の問題点／夢の実現を目指して――理想の地域包括ケア／迫力があるねー

あとがき 尊厳ある最期が守られる社会を目指して

キリトリ

「個人注文欄」にご記入の上、お近くの書店、もしくは弊社までご注文ください。

<p>番線印</p> <p>ご担当者名</p>	<h1>私は、看取り士。</h1> <p>わがままな最期を支えます</p> <p>柴田久美子 著</p> <p>新書判・上製・296頁 本体1,400円+税 ISBN 978-4-333-02785-9</p>	<p>個人注文欄</p> <p>お名前</p> <hr/> <p>ご住所</p> <p>□□□-□□□□</p> <hr/> <p>お電話番号</p> <hr/>
------------------------------------	---	---